

雨が少なめですが梅雨の季節に入りました。梅雨という漢字は、「梅の雨」と書きます。

ちょうど梅の実がなる頃の雨なので、梅雨と書きます。噴水の脇の梅の木に、実がたわわになっているのに気がついた人はいますか。

さて、梅雨というと、何となく紫陽花とカタツムリというイメージが浮かびます。今回は、カタツムリについてお話しさせていただきます。

みんなも知っての通り、カタツムリはゆつくりと動きます。カタツムリの天敵は鳥。カタツムリは、空から襲ってくる鳥に見つからないように葉の裏に隠れ、つづいたりすると殻の中に隠れてしまう、大人しい生き物です。

普段のカタツムリは、日陰のじめじめした場所に暮らしていますが、たまに、光を求めて、日当たりのよい葉の上に移動するものがあります。よく見ると、そのカタツムリ、角(つの)の先端の目が、普通のカタツムリよりも随分大きくなり、まるでイモムシのように見えます。そのイモムシのような形の目を、またよく見ると、何やら模様が動いているようにも見えるではありませんか。

あつ、鳥が来てカタツムリを食べてしまいました。あんな目立つところになければ…。

実はこのカタツムリ、ロイコクロロディウムという寄生虫にとりつかれていたのです。カタツムリの目の中で動いていた模様は、カタツムリの目の中に侵入した寄生虫ロイコク

ロリディウムだったのです。この寄生虫はもと、鳥に寄生する虫。

鳥に寄生し、鳥の体内で産み落とされたロイコクロロディウムの卵は、鳥の糞と一緒に鳥の体から脱出。そして、その鳥の糞を食べたカタツムリの体にいったん侵入するのです。

これで終わりではないところが、ロイコクロロディウムのすごい所。カタツムリの体にもまんまと入り込んだロイコクロロディウムは、卵から次第に大きくなっていき、次のターゲットの鳥の体内に移動しなければなりません。そこでどうするか。先ほどお話ししたカタ

ツムリのように、日当たりの良い場所へとカタツムリを移動させます。そう、カタツムリの行動を操るのです！そして目の先端に移動して、鳥の大好物のイモムシに見えるように動き回ります。目の中で動き回るロイコクロロディウムを追い払おうとして、カタツムリは盛んに角を動かします。それがなおさらイモムシのような目を目立たせて、鳥を誘うことになるのです。なんと、恐ろしや…。



このように、寄生した生物が、寄生した相手の行動まで支配する例がほかにもあるようです。君たちは、大丈夫ですか。

立教通りを横に広がって歩いて、他の方向にご迷惑をかけたたり、地下道を走り回ったり、

電車やバスの中で大声を出したり、迷惑な行為をしていますか。君たちに「悪魔」が寄生しているときはありませんか。電車やバスの中で、悪魔にとりつかれそうになったら、次の「**おいあくま**」の呪文を思い出して、自分をコントロールしてください。

**おおごえをださない**

**いどうしない**

**あつまらない**

**くつつかない**

**まいあがらない**

梅雨時のじめじめした天気が続くと、グラウンドで思いつきり遊べなかったり、マスクがうつつうつつかつたりと、暴れたくなる気持ちには分らないわけではないのですが、悪魔に支配されるような人間に成り下がりませんように。

カタツムリのように寄生され、コントロールされ、死に至る恐ろしさを考えたなら、自分の理性と意志で自分自身を律することができているのは、なんと有難いことか。よく考えてみてください。

~~~~~

電車やバス内で、本校の児童が、「**悪魔**」に寄生されているようでしたら、「**おいあくま**」(微妙な間)を思い出せ！」とお声がけいただき、ご注意いただけましたら幸いです。

(立教小学校校長 田代 正行)